



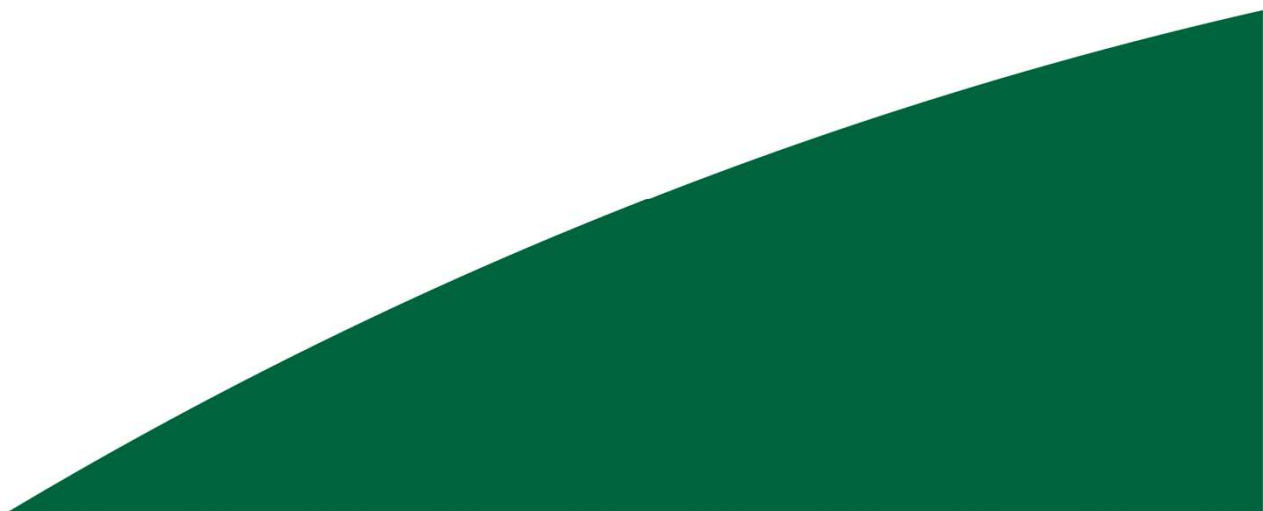
王子グループのネイチャーポジティブ経営

~王子の森の挑戦~

2026年 10月 15日

王子ホールディングス株式会社

OMO 王子の森活性化推進部



はじめに

森林資源に根付いた事業運営



出典：公益財団法人 紙の博物館

渋沢栄一により会社設立

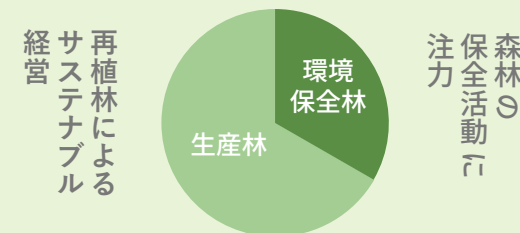


王子造林の設立



セニブラ（ブラジル）

世界の王子の森 63.7万ha



1873

1875

1890

1937

1992

2024

森林資源に根付いた
ネイチャーポジティブ経営を継続

木材パルプ製造開始

東京都王子に工場建設

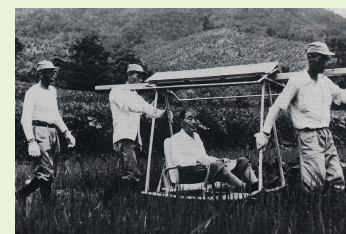
ボロ切れをリサイクル原料として紙を生産

「木を使うものには、木を植える義務がある」

1930年代 当社社長 藤原銀次郎

本格的な海外植林開始

早生樹植林が主流となる



北海道での山林視察の様子

持続的な成長に向けた取り組み



王子の森の挑戦 1

王子の森の経済価値化

自然資本会計に関する国際的な流れ



自然資本会計の潮流

持続可能性
の概念の始まり

地球温暖化対策
の国際的協調
の取り組みが進展

ネイチャー
ポジティブ
の取り組みが進展

自然資本
会計へ

自然資本会計とは

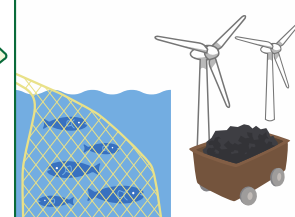
自然資本とは、森林、土壌、水、大気、生物資源等、
自然によって形成される資本（ストック）

これらの自然資本を経済価値として評価し、
会計基準におりこんでいく議論が各国で進行中

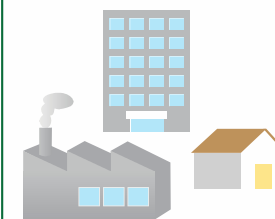
ストック
自然資本



フロー
生態系サービス
非生物的サービス



価値
企業と社会への便益



自然資本が経済価値を生む時代へ



健全に管理された王子の森は、水、大気、生物資源等、自然によって形成される自然資本（ストック）を生む

健全に管理されていない森



健全に管理された王子の森



生物多様性
クレジット
などで評価



その他
自然資本を
経済価値
として評価

水
クレジット
などで評価

Project 1

森の価値見える化プロジェクト



国内社有林のもつ多面的機能の経済価値を林野庁の手法を用いて試算



＊林野庁「森林の公益的機能の評価額について」の手法を基に計算

＊社外環境アセスメント会社によるレビュー済み

Project 1

猿払における王子の森の価値見える化プロジェクトを始動

試算結果をより精確なものにし、自然資本会計につなげるために、自然の価値の評価手法「王子モデル」の検討を開始
北海道猿払村の王子の森を舞台に5要素の価値の見える化に取り組む

猿払(さるふつ)

CO₂

生物
多様性

土壌

栄養

水

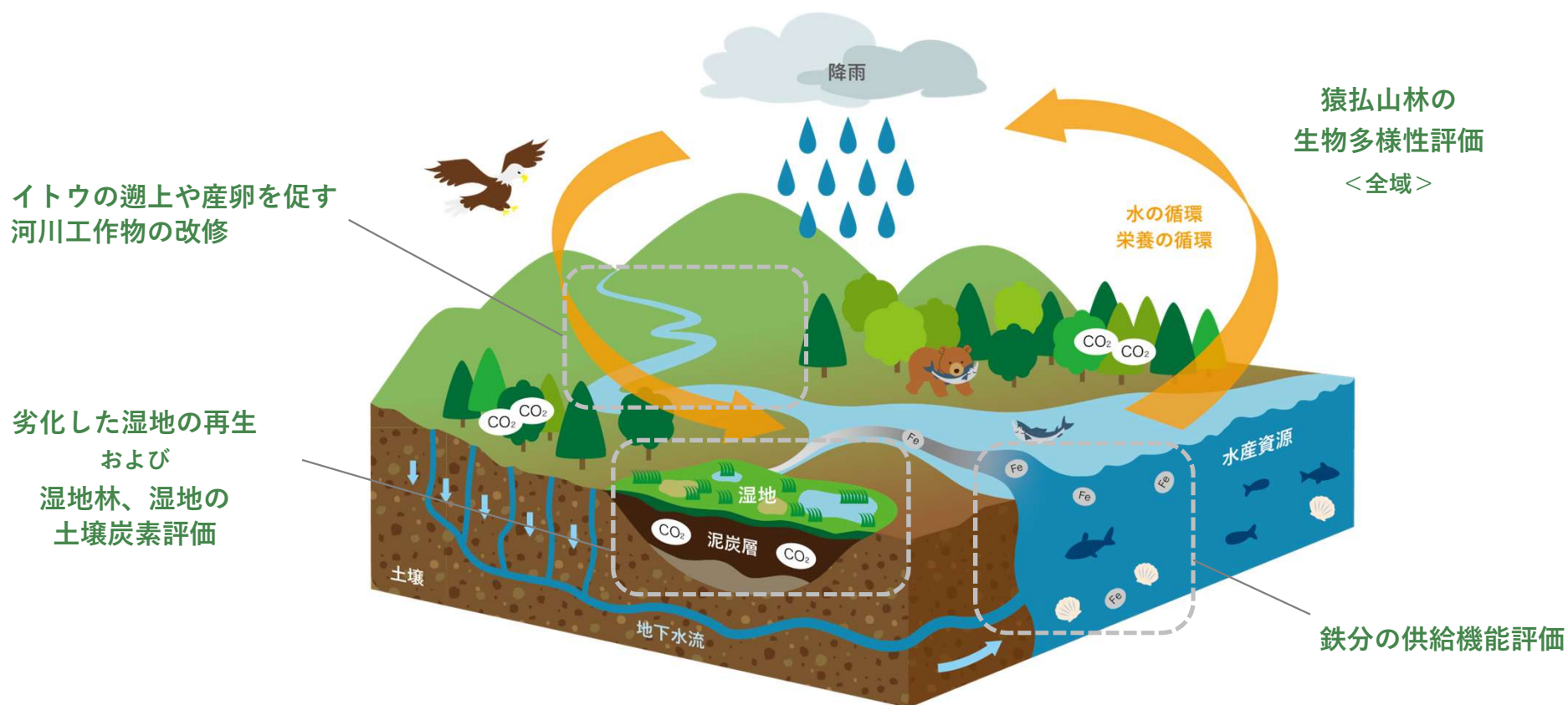
5要素の価値の見える化

Project 1

【猿払】 5 要素の価値見える化プロジェクト



北海道大学と共同で重要な5要素(CO₂、生物多様性、土壌、栄養、水)の価値の可視化と自然再生プロジェクトを実施中



Project 1

【猿払】 5 要素の価値見える化プロジェクト (2)



北海道猿払村での取り組み〈北海道大学の研究者と共同での調査と自然再生〉

イトウの遡上や産卵を促す
河川工作物の改修



河川工作物（カルバート等）や
直線化された小河川の再蛇行化

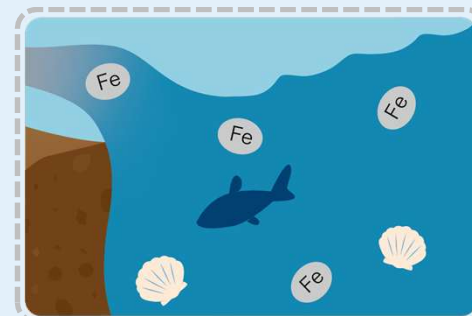
劣化した湿地の再生および
湿地林、湿地の土壌炭素評価



湿地の水位を上げて乾燥化を防いだり
湿地の土壌中の炭素を評価

森林の持つ流域への波及効果

鉄分の供給機能評価



湿地～川～海への鉄分供給機能を評価
湿地が海洋生態系へ与える影響を見る化

Project 1

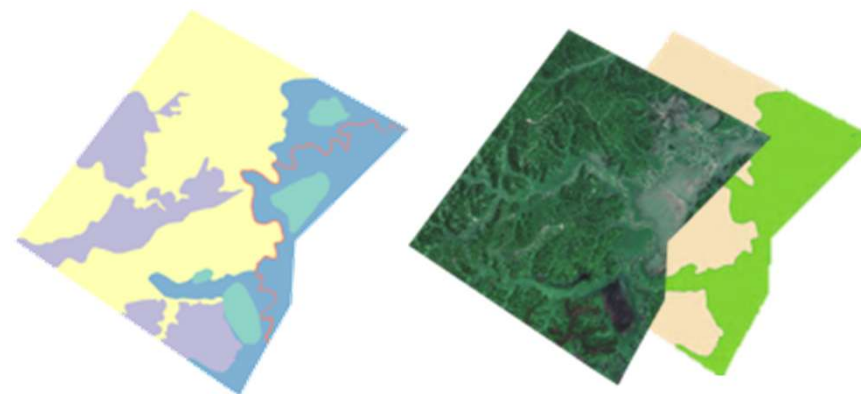
【猿払】 5 要素の価値見える化プロジェクト (3)



北海道猿払村での取り組み〈海外スタートアップ企業と共同での生物多様性評価〉

現場で取得した生物多様性 データ+ AI 解析

生息地情報の リモートセンシング



“Nature on the Balance Sheet”に向けたプロジェクト展開

ランドスケープの観点で多様なステークホルダーを巻き込んだ展開が重要

Project 4 : 東京大学CGC-NBS 日本コンソーシアム

「自然財務諸表」の構築

- ・ 評価、自然資本会計、財務会計の方法を整合させる
- ・ 業界の実証事例を提示する
- ・ 価値を認識し、価格シグナルを更新する

1. 信頼できるデータに基づく自然資本評価と価値の発見

TNFD レポート
LEAP (2024,
2025,2026)

2. 自然資本会計
ビジネスと社会への
価値の定量化

Project 1 :
5,500億円試算
猿払PJ

Project 2 :
NPI SoN パイロット

Project 3 : ISFC 自然資本プロジェクト

Project 5 : ランドスケープの多様な関係者を
巻き込んだ新プロジェクト検討中

3. 財務会計で
認識される自然資本

4. 自然資本資産/負債の
市場価格化
(例：投資家や中央銀行による)

5. 政府による
自然資本の地位の
誘導と奨励

「自然財務諸表」への価値づけ

- ・ マクロ制御、会計手法、資本規則を自然の新たな価値に
適応させる
- ・ 新たな科学技術を受け入れる
- ・ 自然に関する政治的なストーリーを再構築する

マーケットインフラの変革における5段階のロードマップ by Mountains Group
(Capitals Coalition, Systemiq, Landbanking Group, University of Tokyo CGC)

王子の森の挑戦 2

王子の森を起点とした地域共創

地域共創の取り組み

王子の森ツアー・自然学校・企業研修など



- ・旅行会社と協働で、地域の自治体や大学とも連携しながら、一般のお客様向けに王子の森ツアーを実施。
- ・小学生を対象に、地域NPOとも連携し、自然体験を通じて、森～川～海の連環や森づくりの大切さを伝える教育を実施。
- ・紙や段ボールのお客様と、事業所の近くにある王子の森でのワークショップや林業体験会を開催。



王子の森ツアーの様子（静岡県 朝霧山林）



企業研修の様子（静岡県 上稲子山林）

まとめ モノ(製品)・コト(体験)を通じた共創の場へ

王子グループは、地域社会やお客様との共同の取り組みを通じ、共創の場として、森の価値を最大化することを目指す

<既存事業>

サステナブルパッケージ
木質バイオビジネス
トドマツ活用 …など

<価値の見える化>

王子の森の価値見える化PJ
自然資本会計制度化への取り組み

<楽しみ・学び～非言語的価値>

地域、お客様と連携
ツーリズム
研修領域、自然学校
…など



森の生態系 = 共創の場 ⇒ 新たな価値創造へ

地域共創の取組み

『王子の森 四万十』 森のひらきプロジェクト



王子グループでは、環境省の取組む「令和8年 良好な環境を活かした観光地域づくり」モデル事業に参画しています

〈プロジェクト概要〉

四万十川流域の暮らしを支える豊かな自然を地域の「共有の自然資本」と位置づけ、社有林を舞台に、自然や森林文化の価値を体験として提供するプログラムを開発し、地域と企業の協働により、自然共生と地域経済の活性化が両立する持続可能な観光モデルの構築を目指す。

具体例)

- ・ 少人数／予約制／ガイド付きの企業や教育機関を対象としたB2B型のインバウンドツーリズム
- ・ 日本で開催される国際会議や学会等のMICEの後のエクスカーショントーリズム など



▲四万十町の木屋ヶ内山林は、環境省の自然共生サイトに登録されている



▲四万十川の中流域に位置し、豊かな自然と文化が調和した原風景や地元の食材とお酒も楽しめる四万十町



当社の課題と制度への期待



■ 森林の多面的価値の保全・活用における課題

- ・ 森林の多面的価値を持続的に支える**マネタイズ**および地域で継続的に活動を担う**人材・担い手の確保**が課題
- ・ 個別プロジェクト（点）の取組には限界があり、**地域や流域全体を巻き込んだ持続可能な仕組みづくり**が必要

■ 面（流域・地域）で価値を捉える重要性

- ・ 猿払では森林だけでなく、河川や海域とのつながり、地域産業や暮らしを意識しながら取組を推進
- ・ 四万十も同様であり、**森林・流域・地域社会を一体として評価する視点**が重要

■ 評価制度への期待

- ・ 環境省から評価して頂くことで、地域・行政・企業など関係者間の**コンセンサス形成**のさらなる促進を期待
- ・ 森林そのものの価値だけでなく、**森林が地域社会に生み出す価値**（地域連携、担い手育成、関係人口の創出、地域経済へのインパクト、住民のシビックプライドの醸成）など、**仕組みの持続可能性も可視化され、評価される**ことを期待
- ・ さらに他地域への展開を見据えた**拡張性・再現性の評価**を期待



Dedicated to **Sustainability**